

《より一層安全・安心な発電所を目指して決起集会を開催しました》

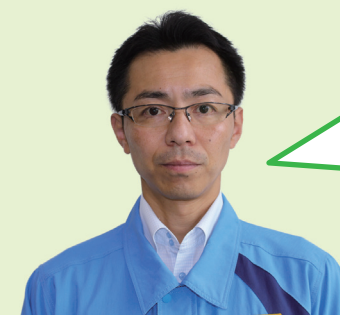
8月19日、女川原子力発電所において、業務品質の向上に向けた決起集会を開催しました。

本集会は、発電所および構内協力会社が日常の作業においてさらに一歩踏み込んだヒューマンエラー防止対策の徹底など業務品質の向上に向けた取り組みを実施することを目的として行いました。

集会では、約1,400名の参加のもと発電所員および構内協力会社社員より、業務品質向上への取り組み事例の紹介や決意表明などを行い、参加者全員が一丸となり、より一層安全・安心な発電所を目指して誓いを新たにしました。



決意表明の様子



保全部 計測制御グループ
佐々木 茂夫 (福島県出身)

作業には多くのリスクがあることから、「もし」手順を間違えたらどうなるかなどを想定して十分な準備にあたります。

《夏休み親子ふれあいイベントを実施しました》



～ 海の生き物観察会 ～

8月6日、小屋取海水浴場において「海の生き物観察会」を行いました。この観察会は、発電所が実施している「東北電力図画コンクール」の審査員で水中写真家の渡辺信次さんを講師に招き、海辺や砂浜にいる生き物を比較・観察してもらおうと行ったもので、多くの皆さまに参加いただきました。

参加された皆さまからは「水中と海辺の生き物の違いを見ることができてよかった」などの声が聞かれました。

～ 科学実験ショー ～

8月10・11日、女川原子力PRセンターにおいて「サイエンスステージ in おながわ」と題し科学実験ショーを行いました。

サイエンスパフォーマーのすずきまどかさんを講師に招き、身近にあるものを使った体験型の実験ショーを行い、多くの皆さまに参加いただきました。

参加された皆さまからは「ダンボールなどおうちにあるものを使ってこんなに楽しい実験ができるとは思わなかった」などの声が聞かれ、科学の不思議を体感するよい機会となりました。

また、PRセンターの2階では、常設展示として7月23日～8月21日の期間に「トリックアート展」や「とびだす絵本展」を行い、来館者の皆さまに楽しんでいただきました。



女川原子力PRセンターからのお知らせ

《「第15回東北電力図画コンクール」一般投票を行います》

8月31日までに募集した「第15回東北電力図画コンクール」に、たくさんご応募をいただきありがとうございました。

10月1日から10月31日までの期間、一次審査を通過した200作品を女川原子力PRセンターに展示し、来館者の皆さまによる一般投票を行います。ぜひご来館いただき、お気に入りの作品に投票してください。

《秋の収穫祭を実施します》

10月23日、女川原子力PRセンターにおいて秋の収穫祭を実施します。女川原子力PRセンター内の果樹園で育ったりんごや大根などの収穫の他、ご家族で楽しめる各種催しを実施いたします。

皆さまお誘い合わせのうえ、ぜひ女川原子力PRセンターにお越しください。

女川原子力PRセンター

住所：牡鹿郡女川町塚浜字前田123 電話番号：0225-53-3410
開館時間：9:30～16:30 休館日：9/20(火)、10/17(月)

《石巻川開き祭りに参加しました》

「第93回石巻川開き祭り」（石巻商工会議所など主催）が7月31日から8月1日にかけて開催され、石巻地域の東北電力グループ企業などで構成する「東北電力企業グループまつり会」の約180人が参加しました。

「大縄引き大会」や「孫兵衛船競漕」に参加し、残念ながら途中での敗退となりましたが、「来年は決勝に」と再チャレンジを誓い合いました。

また、黄と黒の2色の法被を着て参加した大漁踊りでは、皆が一体となった踊りを披露し、全身に汗をにじませながら石巻の夏を楽しみました。

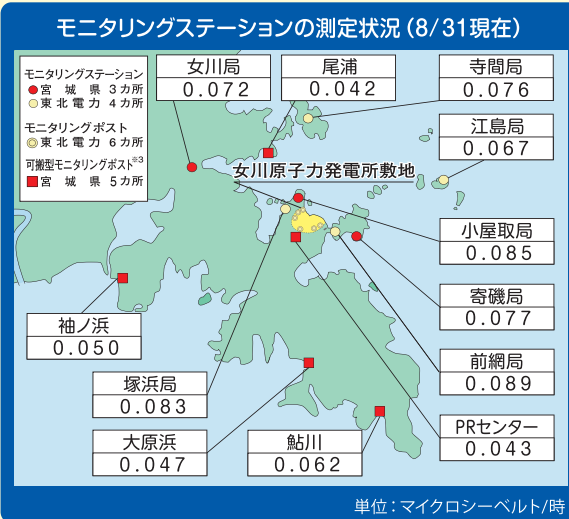


《女川原子力発電所周辺の放射線量は安定しています》

女川原子力発電所周辺の放射線はモニタリングポスト*1やモニタリングステーション*2で測定・監視しており、その測定値は宮城県および当社ホームページで公開しています。

発電所敷地内に設置してあるモニタリングポストの現在の測定値は、最大で0.058マイクロシーベルト/時程度で安定しており、健康に影響を与えるレベルではありません。

- ※1 モニタリングポストは発電所敷地周辺の環境放射線を測定しています。女川原子力発電所の敷地境界には6基のモニタリングポストが設置されており、その最小値と最大値について、東北地方太平洋沖地震の発生日の値、それ以降で最大値が測定された日（平成23年3月13日）の値、毎年度（4月1日）の値、至近の値を掲載しています。
- ※2 モニタリングステーションは環境放射線に加えて気象データを測定しています。
- ※3 宮城県では、震災により測定不能となっているモニタリングステーションの代替として、可搬型モニタリングポストによる測定を行っています。
- ※4 東京電力福島第一原子力発電所からの放射性物質の放出に伴い測定されたもので、測定された時間は約10分間です。



新規制基準適合性審査状況のお知らせ(8月末現在、審査会合79回開催)

《基準地震動の策定(プレート間地震)について》

女川2号機の適合性審査では、基準地震動*1の策定のうち、「プレート間地震」について審議されています。(平成28年8月19日)

「プレート間地震」による地震動に関するこれまでの審査会合におけるコメント等を踏まえ、不確かさの考え方を整理した結果得られた地震動(722ガル)などについて説明しました。

これにより得られた地震動は、適合性審査申請時の基準地震動Ss-1(640ガル)、Ss-2(1,000ガル)を一部の周期帯で上回るものです。

本審査項目については、原子力規制委員会から、評価の一部の計算結果を補足的に示すようコメントがあったものの、おおむね妥当な検討がなされていると評価されました。

今後、今回いただいたコメントならびに海洋プレート内地震、震源を特定せず策定する地震動に関するコメントへの回答などについて説明してまいります。

なお、女川原子力発電所は、適合性審査申請時の基準地震動に対して裕度を持たせた耐震工事を進めているため、今回の追加評価による発電所の設備への影響はないものと考えておりますが、今後、詳細な評価を実施することとしております。

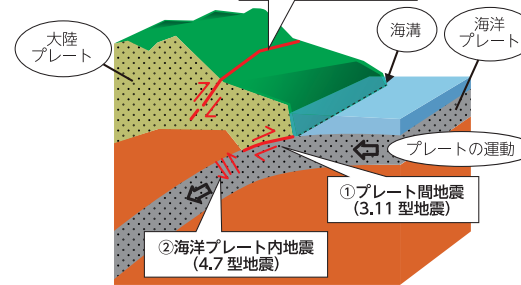
※1:原子炉施設の供用期間中(運転開始から廃炉までの間)に極めてまれではあるが発生する可能性があり、施設に大きな影響を与える恐れがある地震動。

地震動の評価概要 注:表中の加速度は、すべて水平方向の加速度

	適合性審査申請時の評価		追加検討の状況		審査の状況
震源を特定して策定する地震動	①プレート間地震	2011年東北地方太平洋沖型地震(3.11型地震)を考慮	基準地震動Ss-1 640ガル	左記地震について断層モデルによる評価を実施 基準地震動Ss-1 640ガル 新たな地震動① (H28.3.4公表済み) 717ガル 新たな地震動② (今回説明) 722ガル	おおむね妥当な検討がなされていると評価
	②海洋プレート内地震	2011年4月7日宮城県沖型地震(4.7型地震)を考慮	基準地震動Ss-2 1,000ガル	左記地震についてより厳しい条件で追加評価 基準地震動Ss-2 1,000ガル 新たな地震動 検討中*2	審議中
	③内陸地殻内地震	F-6断層~F-9断層による地震を考慮		左記地震および仙台湾の断層群による地震を考慮 基準地震動Ss-2 1,000ガル	おおむね妥当な検討がなされていると評価
震源を特定せず策定する地震動	従来 ¹ の知見(450ガル)		留萌地震を考慮	新たな地震動 (H28.4.21公表済み) 620ガル	審議中

※2:今後、追加評価に基づく新たな地震動の設定について検討していく

地震の発生様式イメージ



審査会合の詳細は当社ホームページをご覧ください。

東北電力 女川審査会合

プレート間地震【地震動応答スペクトル(水平成分)】

